

MiTA

2015/5/25

Vol. **54**

水島ポートニュース

Mizushima International Trade Association



—— 特 集 ——

水島港セミナー 開催報告

Contents

- ・水島港セミナー開催
- ・韓国航路に新規航路開設相次ぐ
- ・マリンタワー完成紹介
- ・新高梁川橋梁工事進捗状況
- ・一般国道2号玉島・笠岡道路I期開通



写真／水島港国際コンテナターミナルとその周辺

《特集》水島港セミナー開催報告

東京で水島港セミナー開催!! 最寄り港利用の利点をPR

平成27年2月4日、東京都中央区日本橋蛸殻町のロイヤルパークホテルにおいて、111の企業・団体から240名を超える多くの方々の参加をいただいた、18回目となる水島港セミナーを開催しました。

セミナーの開会に当たり主催者を代表して、伊東倉敷市長(MITA副会長)が、国際拠点港湾水島港の最新状況や最近の取り組み、また中四国のクロスポイントに位置する水島港の利便性などを首都圏の荷主、船会社、物流企業等からの参加者に紹介し、水島港の更なる利用促進を促しました。

伊東市長は「全国第9位の取扱貨物量を有する水島港が、どのように変化をしているか」ということを皆様にお伝えしたい。今、地方創生という事が大変話題になっている。岡山県内の7.6兆円の製造品出荷額の半分の約3.8兆円を水島コンビナート地帯で製造しているが、そこを支える最も重要な基盤が国際拠点港湾の水島港である。本日のセミナーでは、水島港の最新状況を理解して頂き、是非、利活用の検討をお願いしたい。」と挨拶しました。

続いて、伊東市長が『国際拠点港湾・水島港の港湾整備と地域経済の発展』と題して、プレゼンテーションを行いました。まず、水島港のポテンシャルとして、「年間の降水量1ミリ未満の日数が全国第1位の晴れの国」、「高速道路のクロスポイントに位置」、「地震等災害発生が少ない温暖な気候」、「2時間圏域の人口約1640万人」などに加え、全国有数の水島コンビナートを背後圏に有する優位性を伝えました。

次に、水島港の現状と機能強化への取組として、国際コンテナターミナルの整備が進み、水深12m耐震強化岸壁を含む3バースにはガントリークレーン3基を配備し、コンテナ船3船同時荷役が可能なこと、また4号埠頭の自動車専用ターミナルでは、特区認定によりナンバープレートなしでの走行が可能となり、三菱自

動車工業(株)水島製作所を中心とする「中四国の完成自動車配送拠点」となっていることを伝えました。

最新情報として、新規航路開設による韓国航路のデیلیー化やポートラジオ局が入居するマリントワーが3月に完成予定であること、4号埠頭隣接地にトレーラー待機場の整備を進めていることなどを紹介しました。

そして、物流拠点の玉島地区と生産拠点の水島地区を結ぶ新高梁川橋梁の開通が2016年度末の供用開始予定であり、両地区の移動時間短縮と物流コスト削減の効果をPRしました。

伊東市長は、こうした水島港の利便性向上を示したうえで、岡山県内の輸出入コンテナ貨物の水島港利用率が3割程度にとどまる現状を指摘し、「目的地によっては、水島港の方が神戸港の利用に比べ、海上運賃は割高になるものの、水島港からの距離によっては、陸上運賃を削減でき、安くなる場合があるので、トータルでの比較検討をお願いしたい。」と述べ、水島港利用を提案しました。

また、創荷に結びつく企業立地への支援制度の紹介に加え、昨年10月には玉島ハーバーアイランドに新たに食料コンビナートを構成する企業の立地が決定しており、地域経済の活性化と取扱貨物量の増加が期待されることを説明しました。

続いて、倉敷で創業し、世界に誇れる多くの商品を玉島工場で製造している株式会社クラレ倉敷事業所の林洋秀所長が、『水島港とミラバケツ』と題して講演を行い、水島港に立地する同社の主力工場や事業概要などを紹介しました。

セミナー後に開催されたレセプションでは、伊東市長から「首都圏から本社機能を移転して頂けるような街づくりや港づくりに努めたい。」と挨拶があり、逢沢一郎衆議院議員、池田道孝衆議院議員、加藤勝信衆議院議員、

橋本岳衆議院議員、石井正弘参議院議員、谷合正明参議院議員、中塚周一岡山県議員、村瀬勇人水島港運協会会長、中谷庄吾水島港運協会副会長にご挨拶を頂きながら、水島港の利用促進について、和やかな雰囲気の中で多くの関係者が情報や意見交換を行いました。



レセプション会場の様子



林(株)クラレ倉敷事業所長講演の様子



伊東市長による水島港利用促進提案



倉敷市出展ブース③



倉敷市出展ブース②



倉敷市出展ブース①



中谷水島港運協会副会長挨拶



村瀬水島港運協会会長挨拶



伊東倉敷市長挨拶

韓国航路に新規航路開設相次ぐ

水島港と韓国の釜山港とを結ぶ、新規国際定期コンテナ航路が、平成27年1月と3月に相次いで開設されました。まず、平成27年1月26日に、週1回（月曜日）寄港する韓国の船社「NAMSUNG SHIPPING CO., LTD.（南星海運㈱）」所有の「MERRY STAR（積載能力342TEU）」が初入港しました。

初入港にあたり開設記念式が開催され、MITAからジョン・シンチヨル船長に花束を贈呈するとともに、県・倉敷市・水島港国際物流センター㈱・取扱代理店の日本通運㈱からそれぞれ記念品を贈りお祝いしました。

式では、日本総代理店である南星海運ジャパン㈱の平田優治代表取締役副社長が「長年待望してきた航路が実現した。独自の配船をすることで、より一層水島港に貢献できると考えている。」と述べられました。

さらに、平成27年3月4日には、週1回（水曜日寄港）寄港する日本の船社「カメラアライン㈱（本社：福岡県福岡市）」所有の「PROTEUS（積載能力650TEU）」が初入港しました。

開設記念式では、MITAからラト・レ

オナルド・トレド船長に花束を贈呈するとともに、県・倉敷市・水島港国際物流センター㈱・取扱代理店の中谷興運㈱からそれぞれ記念品を贈りお祝いしました。

式では、運航船社の佐藤潔代表取締役社長が「既存航路の再編に伴い、コンテナ企業貨物が見込め、高速道路等のアクセスの良い水島港への寄港を決めた。」と述べられました。

これらの新規航路の開設に伴い、水島港からの国際定期コンテナ航路は、3ヶ国1地域17航路となりました。特に韓国航路では、月曜日から土曜日までの毎日運航で週10便となり、水島港の利便性が一段と高まることになりました。

相次ぐ新規航路の開設は、充実した港湾機能とコンテナ企業を背後圏に持つ水島港の優位性が評価されたこと、またそれぞれの水島港代理店の営業活動とMITAによるポートセールス活動の成果であると思われますので、MITAでは、今後も引き続き岡山県や倉敷市等と連携しながら、ポートセールスに取り組んでいきます。



カメラアライン㈱記念式の様子



南星海運㈱記念式の様子

玉島ハーバーアイランドにマリンタワーが完成しました!

ポートニュース51号でお知らせしていたマリンタワー（鉄骨造6階建て 延床面積512㎡）が平成27年3月に完成し、4月から利用を開始しました。

マリンタワーの1・2階には、国際コンテナターミナル内で働く皆様のためのトイレや休憩所を新たに設けるとともに、5・6階には、「国際海上VHF水島海岸局（ポートラジオ局）」が倉敷市下津井の三百山山頂から移転入居しています。

玉島ハーバーアイランド周辺には、港則法上の航路や法律による航路規制もないため、港内交通の情報を集め、通行船舶・港内交通信号など必要な情報を利用する船舶へ提供し、港内交通を円滑に行う「ポートラジオ局（みずしまポートラジオ）」の存在は必要不可欠なものとなっています。

これまで、玉島地区の動静把握をカメラにより行っていました。が、このたびの移転により、目視で状況を確認できること、また



業務風景

港湾運営会社である水島港国際物流センターやターミナル内で業務している代理店との情報のやり取りを密接に行えることになり、船舶の受け入れ体制や荷役状況の確認、後船への適切なタスキミングでの指示などロスのないターミナル運営が期待でき、航行安全性が格段に向上します。

玉島ハーバーアイランドでのハード整備に併せて、こうした労働環境や航行安全の向上などのソフト整備を進めることで、より使いやすい港を目指してまいります。



マリンタワーからの眺望

マリンタワー竣工に際して

株式会社東洋信号通信社 神村 尚史

弊社は、みずしまポートラジオ開局当初からポートラジオ局の通信業務を受託し、平成15年からは水島港ポートナビサポート事業として水島港航行管理支援業務も受託しています。私たちは24時間365日、船舶の航行予定とリアルタイムの動静を総合的に把握し、港湾利用者及び関係船舶への的確な情報提供を行い、水島港の安全且つ効率的な港湾運営をサポートして参りました。

マリンタワー移転後は、今まで監視カメラを用いて船舶の動静把握を行っていた玉島ハーバーアイランドの周りが目視で確認できるようになり、今まで以上に正確な船舶の動きを捉えることが可能となりました。今後は、玉島ハーバーアイランドに食料コンビニエンスストア企業立地が決定し、水島港を利用する船舶の増加が見込まれることとなりますが、航行管理支援業務を基に情報提供を充実させ、船舶の安全運航に寄与していきたいと考えています。更には『頼りになる』ポートラジオを目指し、港湾関係各所と連携を密にして、皆様と共に安全で使いやすい水島港を実現していきたいと思っています。

TOPICS

新高梁川橋梁の整備が進んでいます。

高梁川を渡る新たな物流ルートが構築され、輸送コストの低減や交通量の分散化による慢性的な渋滞の緩和に寄与する「新高梁川橋梁」の整備が、国土交通省中国地方整備局宇野港湾事務所により、平成28年度末の供用開始に向けて着々と進んでいます。左の写真で、渡河部上部工における、台船を使用した橋桁の一括架設工事の状況をご紹介します。



一般国道2号玉島・笠岡道路I期開通



国土交通省が整備している国道2号バイパス「玉島笠岡道路」のうち、Ⅰ期区間(倉敷市玉島阿賀崎―浅口市金光町佐方、4.5キロ)が平成27年3月29日に暫定2車線で開通し、記念式典が行われました。今回の開通で、渋滞ポイントである唐船交差点を経由せずに通行できるようになりました。

玉島笠岡道路は、倉敷市西部からの水島臨海工業地帯や玉島ハーバーアイランドへのアクセス道路であり、この道路整備により交通網が一層充実することとなり、輸送の定時性が向上するなど、物流の効率化が期待されます。